巻頭言

公団創立40年，技報創刊20年
今こそ　技術者の気張り時！

審　議　役
中　島　裕　之

今年は技報創刊から20年目に当たり，また公団創立から40年になります．みなさんご存じの様に技報にはその年の技術研究発表会で発表された報文の中から特に技術的価値が高いものや資料として保存しておく価値が特別高いと判断されたものが収録されています．技報は技術研究発表会論文集と並び，公団における技術の枠を集めたものと言えるでしょう．その時々の技術的トピックが詳細に技報に掲載されてきており，公団の技術の貴重な蓄積を可能にしていることは間違いないと思われます．今年は技報20号記念として工務，保全施設の両部からその技術の変遷といったものが特集されています．それを見ますと我々の興味の対象はその時々の要請からいろいろと変化があります．たとえば高架橋から地下構造への変化や，短期的視点からの保全から長期的視点からの保全への方針変更等がありますが，技術に取り組む基本的思想というか考え方は公団の40年にわたる歴史の中で一貫しているように思えます．これは先輩から後輩へとうまく技術が引き継がれてきた事実によること，そしてそれをさらに発展させようとする強い意志があったことによるのではないでしょうか．公団という組織が必要とする技術というものは何か，その中での技術者の役割は何かを公団技術者は常に頭に置きながら仕事をしてきたのは事実であると思われます．最近よく見られる公団に対するいろんな批判の中には，いかにも公団がずさんな仕事をしてきているかの如きのものがあるのは残念でなりません．そうでないことの証左がまさに技報ではないでしょうか．公団の技報は公団技術者の研鑽の結集であり，そのすばらしい成果の一つであることは間違いのない事実なのです．しかし一方その様な意識に安住していてはならないのも事実なのです．我々技術者に対する要望はより高度かつ多岐にわたるようになり，一時たりとも立ち止まっていることが許されない状況になってきています．しかしその際にも我々が長年蓄積してきた物事に対する見方が大いに役立つのではないでしょうか．技術者にとって最も大切なものは論理的思考であり，また当たり前と思われることをもう一度本当にそうなのか各技術者自身の論理で再考する事ではないでしょうか．そして，これなくしては合理的な構造物を創造し，新しい考えの下で構造物を維持管理し，さらにいろんな変化に柔軟に対応することは難しいと思われます．公団創立40年，技報創刊20年，公団改革のための国の委員会が発足する今年，今一度我々公団技術者の来し方，行く末をじっくり考えてみることが大事ではないでしょうか．これからのどのような変化にも自信を持って準備万端と言えるように，また我々が担っている社会資本としての都市内高速道路の整備及びその良好な管理がどれほど大切かにつきもう一度各自で思いを新たにし，お互いにもうひと気張り，ふた気張りしようではありませんか．